



昨年9月19日の戦争法の強行成立は認めない。大阪総がかり行動が取り生まれ、5千人が参加し決意を新たにしました。(9・19 大阪市うつぼ公園)

平和がいちばん

2016年10月15日
第 112 号
平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会

当初理念から遠ざかる 介護保険

「要介護1・2といった要介護度の比較的軽い人を対象にした生活援助サービスは介護保険の対象から外す」ことを政府内で検討中と報道されています。2015年度の改定では要支援1・2の方が受けていた通所介護や訪問介護サービスが対象外になりました。制度開始の2000年から強制的に保険料が徴収され、その額も倍増されていますが、いざその年齢になっても、適用範囲が狭まっておりサービス受給ができなくなっています。発足時の契約は反故にされています。

介護制度は、高齢者の介護を社会全体で支える「介護の社会化」を理念として創設されました。高齢者の増加によって介護はより専門的でより個性に沿ったきめ細やかさが求められます。質的にも量的にも発展させなければなりません。しかし政府は介護保険だけでなく社会保障費全体の必要額の増加を喧伝し、その抑制を強調します。そしてこれまで介護保険の対象だ

った方たちを対象外に追いやり続けています。国の予算の中で社会保障費の割合が高くなっているのは当然です。それに加えて消費増税の延期でますます社会保障費の増加を抑制しようとする圧力が強まっています。しかし福祉予算は消費税だけに頼るものなのでしょうか。消費増税分は社会保障費に充てるとされていますが、これまで充てられてきた他の税収分が削減されるなら国民を騙すことになります。企業優遇税制の見直し、租税回避地への規制強化などによる税収増、防衛費の支出削減は最重要課題です。

国には制度の更なる改悪に反対する運動を強め、市には独自施策の拡充強化を求めましょう。小規模施設の運営や介護職労働者の生活の十分な保障は制度を支える根幹です。そして必要な市民が介護保険制度を利用できているか、地域の実情を常に把握し市民に寄り添う市役所でなければなりません。

松田久子

「津久井やまゆり園」事件の「実名報道」について



今年7月26日に神奈川県相模原市「津久井やまゆり園」で起こった入所する障がい者が相次いで刺され、19人が死亡、多数が重傷を負った事件で、「被害者の実名報道」がされなかったことが、参加した集いで話題になった。

私もこの事件の「実名報道」を巡る議論は知っていたが、今回、その意味するところについて改めて考えるきっかけになった。報道では「遺族の強い要望があった」と遺族への配慮から実名が公表されなかつたと報じられていたが、参加者から「ほかの事件、事故であれば犠牲になった方の実名が報道されるのは当たり前。障がい者は死んでまでも差別されるのか」との問いかけに私はハッとさせられた。問題は私も含め、それを容認する社会のあり方そのものが問題ではないかと思った。亡くなった方や重傷を負った方たちが「匿名」で扱われるということは一人一人の犠牲になった人たちの個人としての尊厳や人格が軽んじられていることの裏返しであるが、もっといえば遺族がなぜ「匿名」を希望せざるを得なかったのか。そこにこそ焦点をあててもっと議論されなければいけないと感じた。差別や偏見がいかに根強く、横たわっているのかその現実をしっかりと認識しないといけない。枚方の障がい者運動がこれまで培ってきた障がいのある人もない人も一緒に学び、育つ地域づくりの実践、取り組みがいかに重要であり必要なことか、私は今後も学んでいきたいと思う。

ホッと
タイム



手塚たかひろ 議員日誌



9月19日 **憲法改悪を許さない大阪総がかり行動** 大阪うつぼ公園には雨模様にも関わらず5000人が参加。集会では民進、共産、生活、社民の各党の挨拶。ママの会などからもアピール。市民の共闘と野党共闘が続いている。憲法改悪反対、衆議院選挙へ向けて野党共闘を拡大したい。集会後、難波までデモ行進。18時からは枚方市駅前で共同宣伝行動。私たちは、沖縄新基地建設中止、憲法変えるな「平和と命を守る緊急署署名」を取り組んだ。

9月21日 **市議会一般質問** 28人が発言、私は今回も最後。会派に所属していないため、会派議員の後でしか発言できない慣行。議員は平等の権利を有しているはずだが、非民主的な決まりだ。抽選で発言順を決めるなどの改革が必要。そのような議会もある。(別紙『議会報告』参照)

9月22日 **署名実行委員会** 森の映画社藤本監督が緊急に製作した『高江一森が泣いている』のDVD。高江では大阪や東京など全国から500名の機動隊を動員して反対派の住民を暴力で排除している。まさに戒厳令状態。この状況が活写されている。自民党改憲草案にある緊急事態条項の先取り。こんな無法は許されない。この場で「戦争法廃止 憲法変えるな！沖縄新基地建設中止 枚方・交野実行委員会」を結成し、「沖縄に新しい基地をつくらせず、憲法改悪をさせない平和と命を守る緊急署名」を取り組む方針を確認した。

10月4日 **香里ヶ丘図書館見学** 18名が参加。館内を見学した後、館長と懇談。少ない人数で、職員の皆さんが頑張っておられることもよくわかった。大変な仕事だ。もっと人がほしい。市内で一番古い図書館。場所によっては雨漏りの跡もあるなど老朽化が進んでいる。これまでも何度も建て替えの話があったが、日常的な維持・補修も不十分とのこと。早急な建て替えの必要性を確認した。図書館リニューアルは、市民参加で市民の声を反映して欲しいとの参加者の声を大事にしてほしい。

9月23日 9月分議員報酬より219,600円を大阪法務局に供託。**私は公務活動費は1円も受け取っていません。**

意見箱 美術・工芸品は市民の宝

八月、くずはアートギャラリーで「植村猛コレクション 名品展—民藝運動ゆかりの作家を中心に—」が開かれていました。主催は枚方市(文化生涯学習室)。濱田庄司や河井寛次郎の陶芸作品や香月泰男の『彼岸花』などが展示され、パブロ・ピカソの版画作品なども数点並んでいて、間近に鑑賞することができました。

出品された植村さんは楠葉在住の市民です。昨年(2015年)所蔵している200点をこえる美術工芸品と一億円の基金の寄付を市に申し出られました。その動機を植村さんは、香里ヶ丘中央公園への美術館寄贈を市の広報誌で知り「そのような方がおられるなら、自分も集めてきた美術品を、と思って連絡をしたのです」と述べています。市は「植村猛アート基金」を創設し、楠葉での展示会を手始めに、名品の常設展示などの検討を進め

るとしています。

植村さんがなされたことの嬉しい点は、自分が蒐集し所蔵してきた美術品を個人的な鑑賞にとどめるのではなく、優れた作品は“みんなの宝”とばかりに市民の誰もが鑑賞できるよう手立てをとられたことです。懸命に仕事をしてお金を貯え、そのお金で収集してきた逸品の数々を基金と共に市民みんなのものにされたのです。この基金は展示会などに市のお金はあまり使わないようにとの配慮です。

市内にこのような美術工芸作品が在ること、近い将来市民がいつでも鑑賞できるような企画がされること、芸術の分野での人間の到達点をみんなで確かめ合える町に向かうこと、そういう姿勢を貫かれる篤志家がこの枚方に在住されていること、すべてが市民の宝です。優れた芸術作品を市民が共有する町は、人に優しい町であるはずで

佐藤 謙司(楠葉)

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

共同代表 黒田 薫(平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ(親と子のリズム遊び講師)

奥村 秀二(弁護士)

おおた幸世(枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛(枚方市会議員)

スタッフ 松田 久子(「すずらんの集い」代表)

メールアドレス：hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作